

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	耳鼻咽喉科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼夜間部1年		学期及び曜時限	後期 土曜等	教室名	401
担 当 教 員	小川 真	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
耳鼻咽喉の疾患は、聴覚、発声、発語、嚥下と関連が深いいため、これらの機能障害の周辺疾患に関する知識もまた、言語聴覚士の業務上必要になる機会がある。従って、耳鼻咽喉・頭頸部領域の主要な疾患について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『イラスト 耳鼻咽喉科 第4版』						
《授業外における学習方法》						
授業時間が少ないため、1コマで教科書の約35ページ進みます。まず予習で目を通して頂くこと、						
《履修に当たっての留意点》						
耳鼻咽喉科の主要疾患の特徴を理解すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳の構造と機能について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	耳の解剖と生理を学習する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳疾患の検査法、外耳・中耳の疾患について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	耳疾患の検査法、外耳・中耳の疾患を学習する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳の疾患、平衡障害の疾患について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	内耳の疾患、平衡障害を学習する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	顔面神経麻痺、鼻副鼻腔の構造・機能、鼻腔の疾患について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	顔面神経麻痺、鼻副鼻腔の解剖・生理、鼻腔の疾患を学習する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	副鼻腔の疾患、口腔。唾液腺の特徴について説明できる。	テキスト		予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	副鼻腔の疾患、口腔・唾液腺の解剖を学習する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・唾液腺の疾患、咽頭の構造・疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	口腔・唾液腺の疾患、咽頭の解剖・疾患を学習する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭の解剖、喉頭疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	喉頭の解剖、喉頭疾患を学習する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管・食道・頸部の構造、疾患について説明できる。	テキスト	予習として、テキストの相当範囲を読んでおく
		各コマにおける授業予定	気管・食道・頸部の解剖、疾患を学習する。		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			